

## ヒューマンエラーリスク評価による高速適応検査の必要性の検討

井上貴文

新幹線運転士になるための適性検査の項目は、在来線にはない高速適応検査が含まれています。一方、新幹線のシステムの安全性からみますと、その必要性は低いという声もあるようです。そこで、新幹線運転士のエラーによる事故リスクは、在来線運転士のリスクよりも小さく、新幹線運転士に特有のエラーはないという仮説を検証しました。最初に事故実績による評価を行い、次に階層分析法により、ある鉄道事業者のエキスパートがリスク評価を行い、最後に別の鉄道事業者のエキスパートがリスク評価を行いました。その結果、いずれの評価結果も新幹線運転士のエラーによる事故リスクは在来線運転士のリスクよりも小さいと

いう仮説を裏付けるものでした。また、エキスパートにより新幹線と在来線の運転士のエラーを抽出して比較したところ、両者に本質的な差異はありませんでした。以上より、高速適応検査を行う必要性は低いと判断しました。

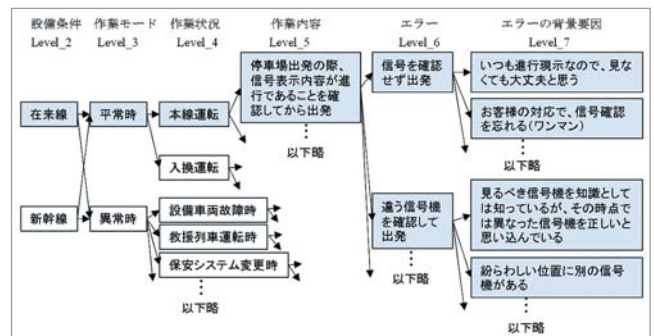


図 リスク評価のための階層構造の概要